

JSPS科研費  
18K01108報告書2

高齢者のウェルビーイングを創成する  
地域学習コンテンツの開発  
ー北海道北部地域における回想法サロンと聞き取り調査・  
地域映像活用・認知症予防活動の記録ー  
青柳かつら・山下俊介・黄京性

2023年3月 北海道博物館

## はじめに

### 超高齢社会における博物館の役割発揮

近年、北海道では、大幅な人口減と高齢化の進行が予想されており、自治体の存続や、産業・くらしの活力低下が心配されています。問題の解決には、若者の雇用の場創出や住民の地域意識を促すことが欠かせません。他方、これらのベースとなる方策の1つとして、高齢化をネガティブに捉えるばかりではなく、高齢者が持つ地域独自の知識を積極的に活用して、地域の個性や誇りを産み出す地域学習を各地へ広げることが重要です。さらには、地域博物館がこの拠点として、知識の集積や人材の交流の場となれば、超高齢社会における博物館の役割発揮につながります。この活動の主体となる、高齢者の認知症予防・健康維持も重要です。

### 共同研究の開始と実践

こうした着眼から、2018年度、著者らは、1) 博物館の連携、2) 映像をツールとする世代交流、3) 高齢者のウェルビーイング（幸福感）をキーワードに、高齢者プログラムとして使用できる、地域学習コンテンツなどを開発する5年間の共同研究<sup>1</sup>を開始しました。

そこでは、青柳・山下は、「回想法<sup>2</sup>」の視点から、高齢者のウェルビーイングを維持したり、高齢者の記憶を次世代へ継承すること等を目的に、博物館所蔵の実物資料や映像資料を活用したサロン、異世代の交流学习等を実施しました。黄は、高齢者の認知症予防や健康維持を目的に、市民団体の組織化を促して、認知症予防に関する学習活動を行ったり、コロナ禍においては、在宅で実施可能な、認知症予防プログラムの開発と実践を行いました。

これらは、モデル地である士別市朝日町、名寄市智恵文地区、同日進地区の、地域博物館・公民館はじめ、多様な組織・機関・個人と協働して、実現することができました。

### 本書の目的

本書を製作した目的は、この5年間のコンテンツ開発に伴う実践活動を、モデル地の「高齢者の地域知の記録」として発行することで、地域文化の継承に役立てることです（モデル地内での活用）。また、他地域の博物館・資料室関係者の皆様に、地元での、高齢者向けプログラムの実施や地域文化研究の参考にしていただくこと（モデル地外での活用）です。また、各研究分担者の研究成果の概要を、モデル地内外に普及することを目的としています。

本書を通じて、各地の博物館・資料室等が、高齢者の社会参加の場となり、地域資源に関する知識集積の場として、役割発揮することを期待しています。

なお、本書には、地域学習プログラムの企画・運営ノウハウを抜粋し、研究成果をハイライトで紹介する普及版（青柳ら 2023）があります。合わせて参照ください。

### 本書の構成

#### 第1章 サロンと交流学习の記録

##### 名寄市智恵文でのサロン

2018年度に開始した「智恵文・地域資源を活かしたまちづくり学習会」（2020年度より「ちえぶん

学講座」に改称)の記録です。この活動は、関心のある誰もが参加できるオープン参加形式です。智恵文中央老人クラブ、北海道博物館青柳、智恵文公民館が共催しました(青柳ら 2022)。

### 交流学習

「智恵文・地域資源を活かしたまちづくり学習会」をきっかけに、2018年度から開始した、同学習会参加者と智恵文小学校児童との交流学習の記録です。2019年度には、智恵文小学校の主催により、青柳を講師、智恵文中央老人クラブ有志を学習支援者に、2回の出前授業が実施されました。

### 士別市朝日町でのサロン

朝日郷土資料室の運営を支援するボランティア組織、「知恵の蔵運営委員会」委員(2022年度委員:21名)を参加者とする「知恵の蔵サロン」の記録です。サロンは、朝日郷土資料室、知恵の蔵運営委員会、北海道博物館青柳が共催しました(以上、編集:青柳かつら)。

## 第2章 ライフヒストリー

サロンや交流学習への積極性や生活経験を考慮して一部の参加者に依頼をし、主に個人を対象に、生活史の聞き取りを行った記録です(編集:青柳かつら)。

## 第3章 地域映像を活用した巡回展と関連講座

2021~2022年度、士別市、名寄市、美深町、美瑛町の博物館・公民館にて、本研究の成果を普及し、地域映像の活用を事業の軸の一つとした巡回展と関連講座(美深町を除く3市町)を開催しました。青柳ら(2022)にデータを補完し、本事業の企画製作者としての参与観察、そして、巡回展開催館の担当者、及び巡回展の関連講座参加者対象のアンケートから、この事業の概要と成果について報告します(執筆:青柳かつら・山下俊介・黄京性)。

## 第4章 老後を楽しむ智恵:高齢者主体的な認知症予防活動の支援

名寄市日進で実施した、地域の高齢者が主体的かつ内発的に取り組む認知症予防活動を紹介します。この活動は、地域所在の大学の教員及び学生などの専門的な助言と指導を得て進めたものであり、活動を直接・間接的に実施できる人材を育成・活用するための探索的な取り組みでもあります(執筆:黄京性)。

2023年3月

北海道博物館 青柳かつら(研究代表者)

### 注

<sup>1</sup> 地域学習プログラムの開発と実践(青柳)、地域資源に関連する映像アーカイブの構築(山下)、認知症予防プログラムの開発と実践(黄)として、研究分担した。

<sup>2</sup> 懐かしい写真や生活用具などを用いて、思い出、記憶を語り合うことにより、脳を活性化して、心身を元気にする心理・社会的アプローチ(市橋 2014)。

## 引用文献

- 青柳かつら・山下俊介・黄京性 2022. 高齢者と協働するナレッジ活用型地域資源学習プログラムの開発（Ⅲ）：高齢者の地域知を活用した地域学習と巡回展事業. 北海道博物館研究紀要. 7: 47-66.
- 青柳かつら・山下俊介・黄京性 2023. 探してみよう！ 地域のお宝 高齢者と協働する地域学習プログラム集. 北海道博物館.
- 市橋良則 2014. 分科会3 「高齢化する社会と博物館」. 博物館研究. 49(3): 22-25. (財)日本博物館協会.

JSPS 科研費 18K01108 報告書 2 「高齢者のウェルビーイングを創成する地域学習コンテンツの開発  
ー北海道北部地域における回想法サロンと聞き取り調査・地域映像活用・認知症予防活動の記録ー」

目次

第1章 サロンと交流学習の記録	1
1-1 名寄市智恵文	
1-1-1 地域資源を活かしたまちづくり学習会	
1-1-1-1 綿羊の飼育と利用 1	1
1-1-1-2 綿羊の飼育と利用 2	25
1-1-1-3 馬を使った米づくり	55
1-1-1-4 食文化 1：開拓期の食	81
1-1-1-5 食文化 2：昭和期の食	101
1-1-1-6 食文化 3：昭和期・乗船寺の食	131
1-1-1-7 開拓期の学校教育	151
1-1-1-8 昭和期の学校生活	168
1-1-1-9 天塩川の恵みと水害	196
1-1-1-10 市街地と商工業 1：でんぷん工場・装蹄所	214
1-1-1-11 市街地と商工業 2：木工場と鉄工場	232
1-1-1-12 市街地と商工業 3：柁職と洋裁・和裁学校	253
1-1-2 交流学習	
1-1-2-1 馬の生産と飼育・農作業	268
1-1-2-2 馬を使った米づくり	292
1-1-2-3 天塩川の恵みと水害	304
1-2 士別市朝日町	
1-2-1 知恵の蔵運営委員によるサロン	
1-2-1-1 暖房用具と冬の暮らし	316
1-2-1-2 馬を使った米づくり	351
1-2-1-3 天塩川の恵みと水害	390
1-2-1-4 開拓期・昭和期の学校生活	423
1-2-1-5 食文化：昭和期の食	450
1-2-1-6 商工業 1：でんぷん工場・装蹄所	475
1-2-1-7 商工業 2：鉄工場	498
1-2-1-8 商工業 3：柁職	514
1-2-2 馬追い経験者によるサロン	
1-2-2-1 林業労働：馬追いの技術と道具 1	522
1-2-2-2 林業労働：馬追いの技術と道具 2	555

第2章 ライフヒストリー	597
2-1 名寄市智恵文	
2-1-1 学校生活、冬山造材、青年団活動（今藤正美氏）	597
2-1-2 馬の生産と飼育1（門馬發氏ほか）	611
2-2 土別市	
2-2-1 馬の生産と飼育2（加藤勝美氏）	635
2-3 土別市朝日町	
2-3-1 天塩川での魚捕り、風倒木処理、岩尾内ダム建設（城守賢治氏ほか）	654
第3章 地域映像を活用した巡回展と関連講座	680
第4章 老後を楽しむ智恵：高齢者主体的な認知症予防活動の支援	688
謝辞	698

## 凡例

- 1 本文の記述のうち、民俗語彙についてはカタカナで表記しました。第1～2章は、話者と聞き手の対話形式を主とすることとし、不明な言葉（部分）については（？）と記述しました。
- 2 第1～2章の括弧内の記述は、文意をつかみやすくするために、編者が補った語です。本文には、一部配慮すべき表現がありますが、話者の語り口を活かして、そのまま掲載してあります。
- 3 掲載の写真のうち、撮影者名や所蔵者名が入っていないものは、本研究の中で撮影したものです。
- 4 本文記載の単位について、メートル法等の換算値は以下の通りです  
1寸=3.03cm 1尺=30.3cm 1反=991.7 m<sup>2</sup> 1町=9,917 m<sup>2</sup> 1間=1.82m 1斗=18.04ℓ  
1貫=3.75kg
- 5 各項目の最後に、画像の出典や引用文献を示しました。

## モデル地・関連地の位置と概要



図1 モデル地・関連地の位置

**士別市朝日町（モデル地）** 天塩川の源流部に位置し、旧士別御料林である4.8万haの森林があり、良質な木材を生産する林業地として発展しました。学芸員の配置がない朝日郷土資料室があり、同室の運営を支援するボランティア、知恵の蔵運営委員会が活動しています（第1～2章）。

**名寄市智恵文（モデル地）** 天塩川の中流部に位置し、緬羊の飼育や馬産、寒冷地に適応した畑作物の栽培が盛んな農村地域として発展しました。現在、アスパラガス、ジャガイモ、カボチャ等が特産です。智恵文公民館にて智恵文中央老人クラブが活動しています（第1～2章）。

**名寄市日進（モデル地）** 名寄市街にほど近く、北は智恵文と隣接しています。山が多い地区で、広大な森林公園、雪質の良いスキー場もあります。日進カフェを活動場所に、2019年に市民有志と名寄市立大学教員の連携で今度会が結成され、認知症予防プログラムの開発と実践を開始しました（第4章）。

### 士別市・名寄市・美深町・美瑛町

2021～2022年度道北地区巡回展「探してみよう！ 地域のお宝」の開催地です。社会教育施設として、士別市立博物館、名寄市北国博物館、美深町文化会館 COM100、美瑛町郷土学館があり、展示会の開催館となりました。士別市、名寄市、美瑛町では、巡回展関連講座「比べる視点で 地域映像を愉しむサロン」も開催されました（第3章）。